



ハート保育園 2月の病児室だより

お預かり日：月～金 お預かり時間：8：30～17：00 TEL：098-989-0045

まだまだ寒い日が続いていますね。県内ではまたインフルエンザ警報が出てしまいました。ご家庭におかれましては、普段から手洗い・うがい・生活リズムを整える・人混みの多いところは避けるなど注意して過ごしましょう。又、インフルエンザ脳症の注意喚起が強く言われています。今回は脳症について説明させていただきます。

<インフルエンザ脳症について>

インフルエンザウイルスの感染が原因で、脳に障害が生じた状態です。正確な原因は不明であるとされており、ウイルス自体が問題なのではなく、ウイルスと戦うために活性化した免疫細胞が脳や神経細胞に障害を与えることによるとされています。

まれにはあるが、インフルに罹っている時にロキソニン・アスピリン（市販薬バファリン）・ボルタレン（座薬も含め）などの非ステロイド性抗炎症薬と呼ばれる解熱鎮痛剤が引き起こすことがあると考えられている。出来るだけインフルエンザ時の解熱剤は、アセトアミノフェン（商品名：カロナール・アンヒバ・アルピニー等）を使用しましょう。

脳症は、発熱後1日以内にけいれんと意識障害が出現し、遅れて全身の臓器障害が現れ、続いてショック・心肺停止となり死亡することもあります。30%が死亡、25%が後遺症を残す、後遺症を残さず回復するのは4割程度となり非常に怖いです。

①5歳以下の子に多い。

②けいれんは15分以上続くような長いけいれんが特徴。

③脳症では、けいれんより先に異常行動が先に起こる割合が多いと言われています。

具体的には「食べ物とそうでないものの区別ができなくなる」「映像的な幻視、幻覚的訴え」「おびえ・恐怖感の訴え」「つじつまが合わないことを言ったり、大声で歌ったりする」

「怒ったり・泣いたり・にやりと笑ったりする」などです。熱でうなされた際との区別が難しいのですが、脳症の前触れである可能性も念頭に置き、経過を見るようにして下さい

④治療は、抗ウイルス薬のほかに脳症に対してはステロイドパルス療法、免疫グロブリン投与、抗けいれん薬投与等です。

今回は、インフルエンザ脳症について紹介しましたが、**予防にはインフルエンザワクチン接種が有効です**。ワクチンを受けて100%罹らないわけではなく、ワクチンをうけることで症状が軽く済み、脳症などの合併症が予防できるので、ワクチン接種が進められています。

○1月の病児利用者の病名：急性上気道炎・中耳炎・アデノウイルス・不明熱